

独創技術でニーズに応える **HJK**

証券コード: 6469

2015年2月期 決算説明会

2015年 4月22日

2015年2月期 決算概要

▶ 2015年2月期の決算ポイントとトピックス

◇ 期初計画を2015年2月18日に修正

売上高 10,409百万円 → 10,087百万円

◇ 前期比増収、営業減益

《要因》

- ・ 製造原価の一時的な増加
- ・ 新規アイテム等の立上に伴う費用増
- ・ 前期比では、新事業の先行費用が増加

◇ 小牧事業所が竣工

- ・ 生産立上に向けて計画を前倒しして進捗中

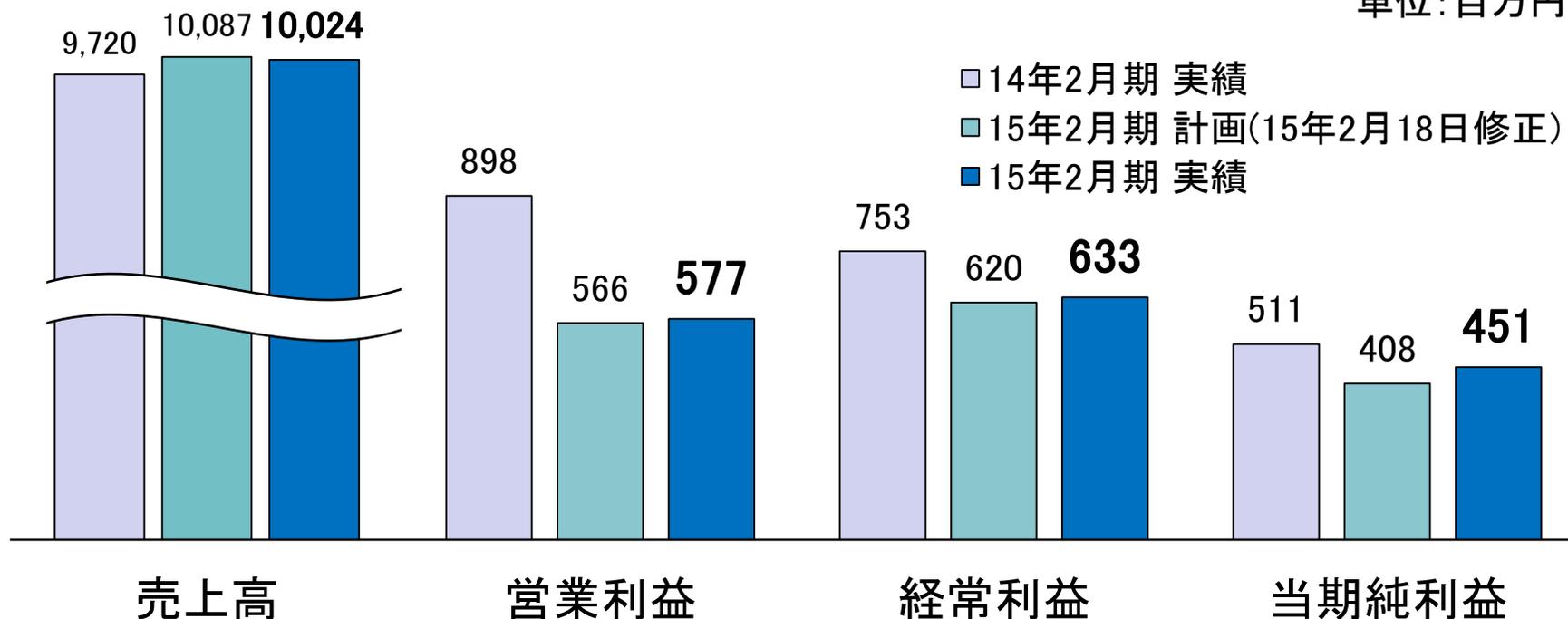
◇ 中期経営計画を策定

2015年2月期決算概要(サマリー)



▶ 売上は前年より好調も計画比で未達。利益はともに未達

単位:百万円



	14年2月期 実績	15年2月期 実績	増減
有利子負債残高	3,233百万円	6,414百万円	3,180百万円
自己資本比率	50.4%	41.6%	▲8.8ポイント
配当(1株あたり)	20円	20円	- 円

2015年2月期当期純利益の変動要因



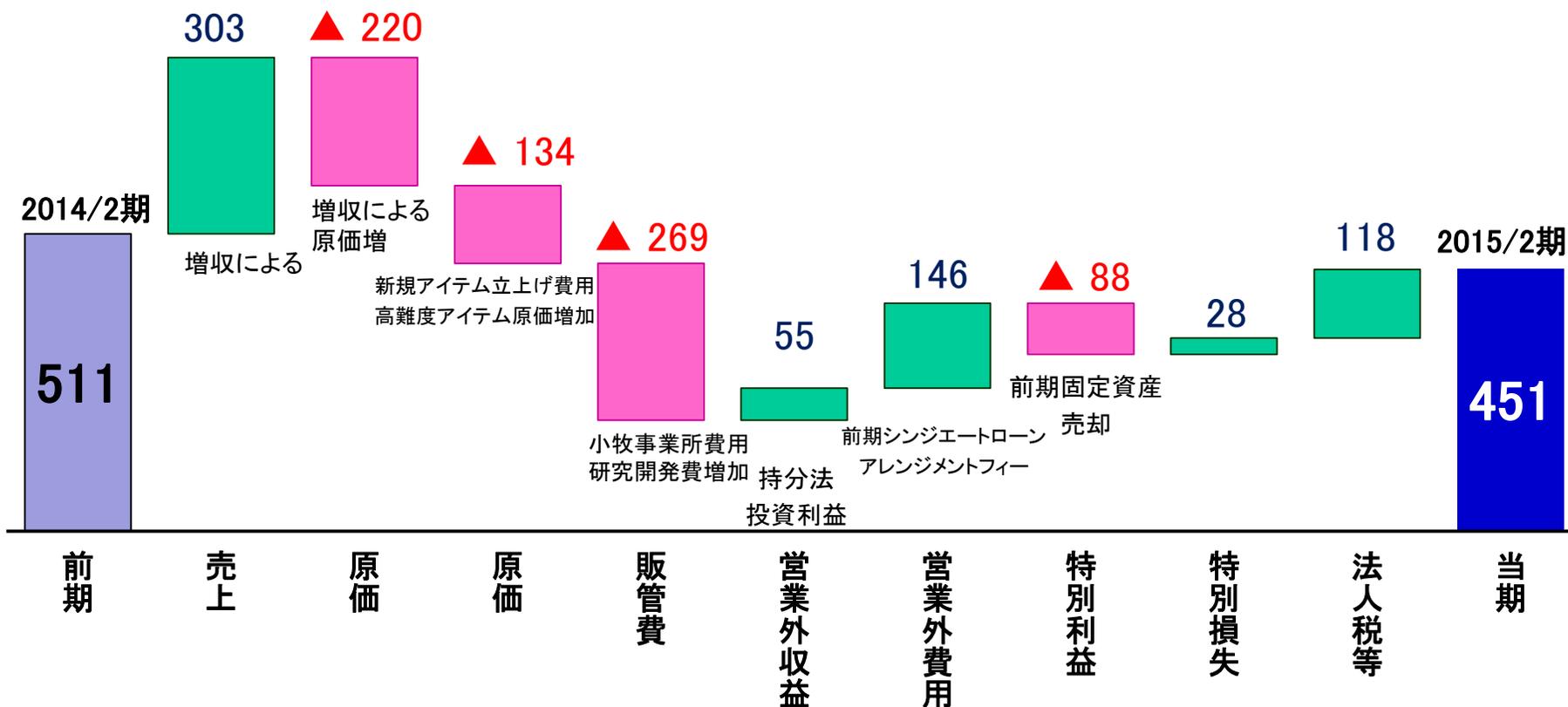
▶ 前期比における当期純利益の変動要因

営業利益の変動要因

経常利益の
変動要因

当期純利益の変動要因

単位:百万円



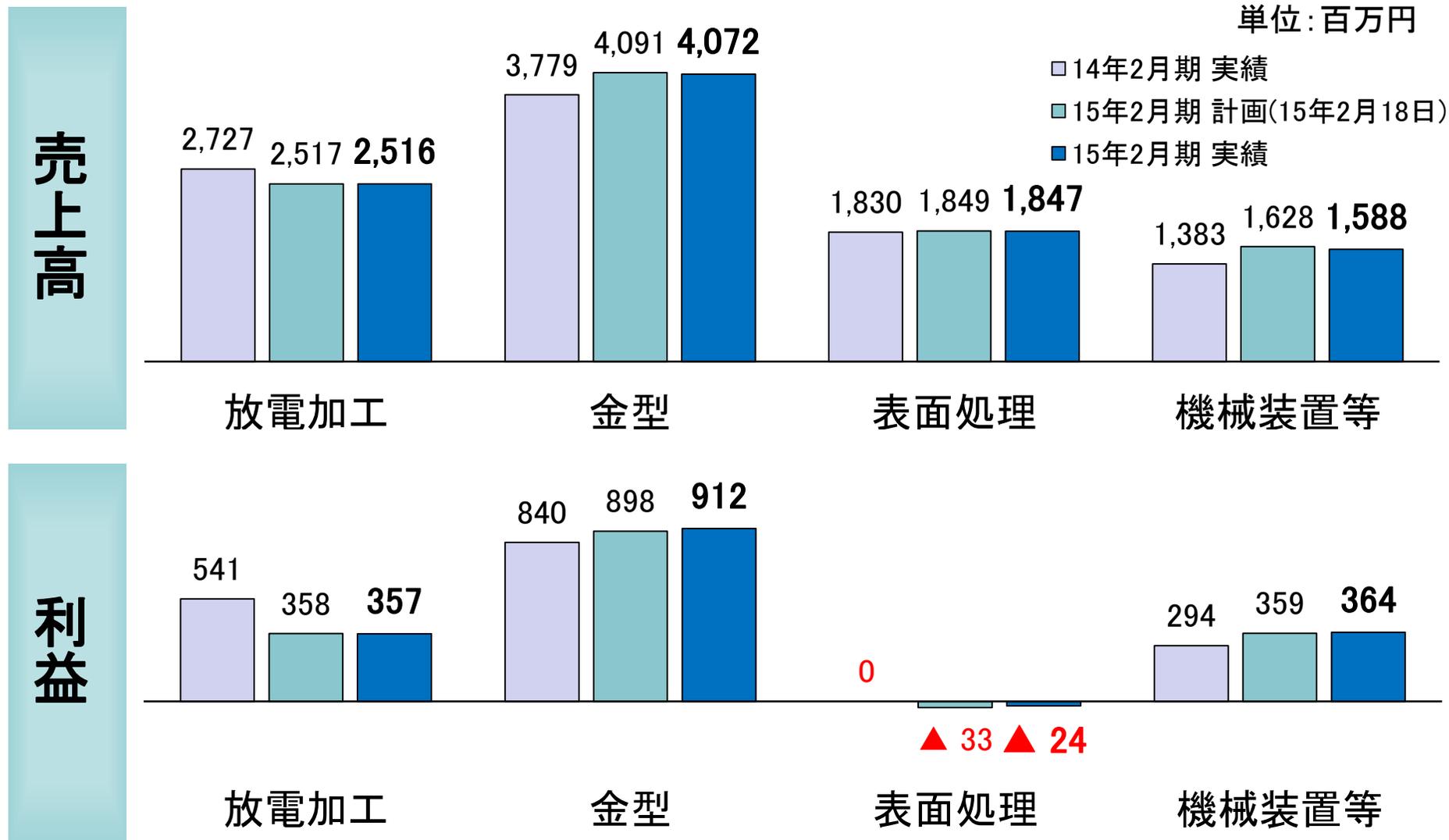
▶ 営業外損益・特別損益

単位：百万円

	14年2月期 実績	15年2月期 計画	15年2月期 実績	前期 差異	計画 差異
営業利益	898	566	577	▲320	11
持分法投資損益	4	63	65	61	1
その他営業外損益	▲149	▲9	▲9	140	0
経常利益	753	620	633	▲119	13
固定資産売却益	112	0	0	▲112	—
その他特別利益	—	24	24	24	—
固定資産除売却損	10	7	2	7	4
工場移転費用	21	—	—	21	—
税前利益	834	637	655	▲178	18

※計画は2015年2月18日修正

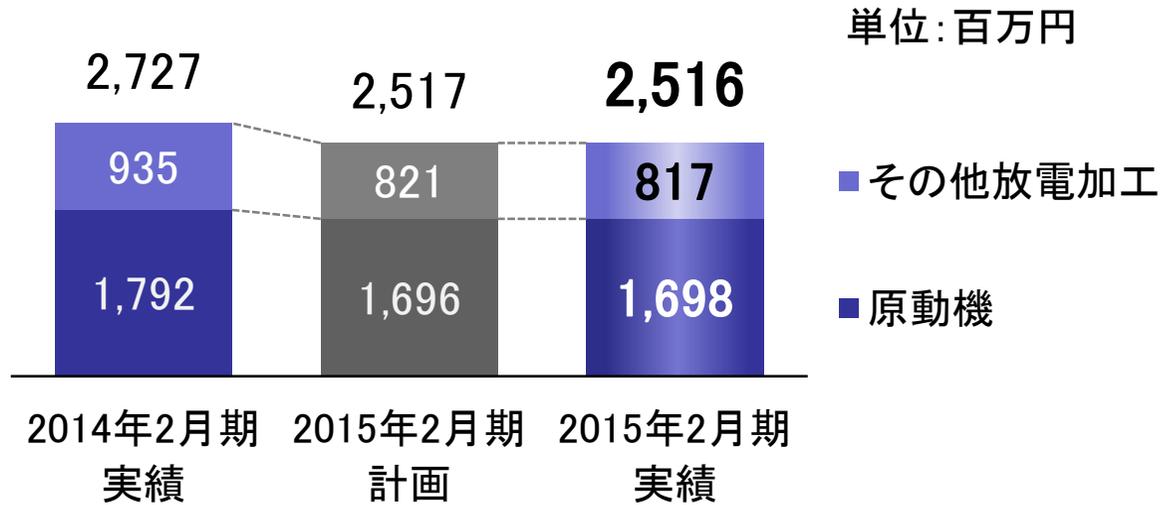
▶ セグメントにおける売上・利益



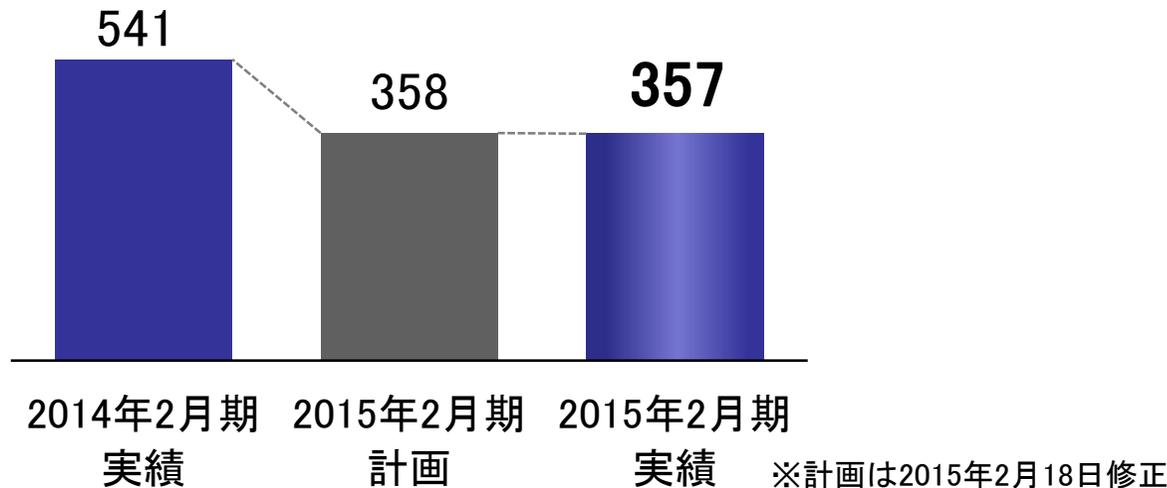
セグメント別詳細：放電加工

▶ 放電加工における決算概要

売上高



利益



前期比

売上高：減収

産業用ガスタービン部品加工の受注アイテム及びその他放電加工の一部アイテム受注減により減収

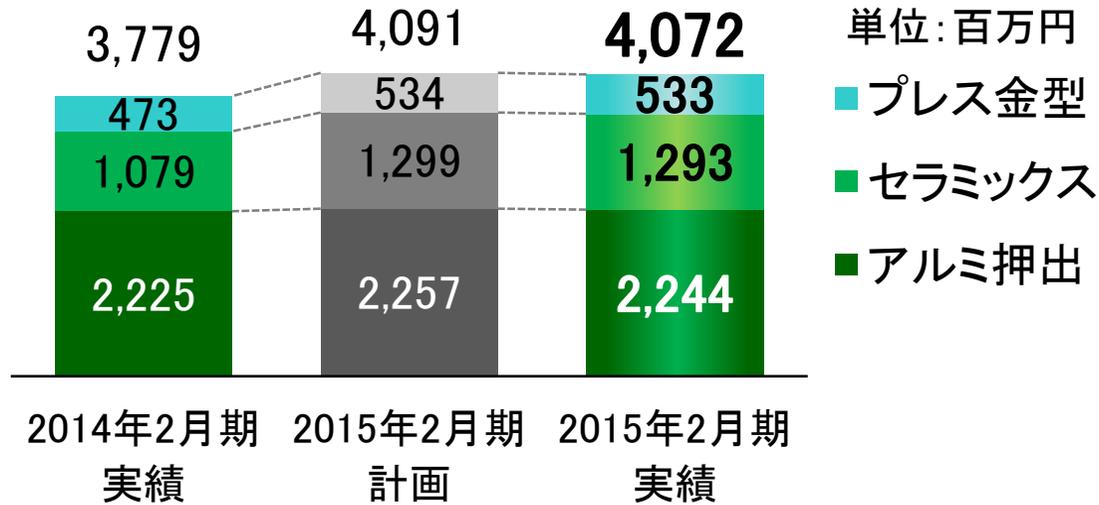
利益：減益

減収及び新規アイテム立上費用及び、一時的な高難度アイテムの原価が一時的に増加し減益

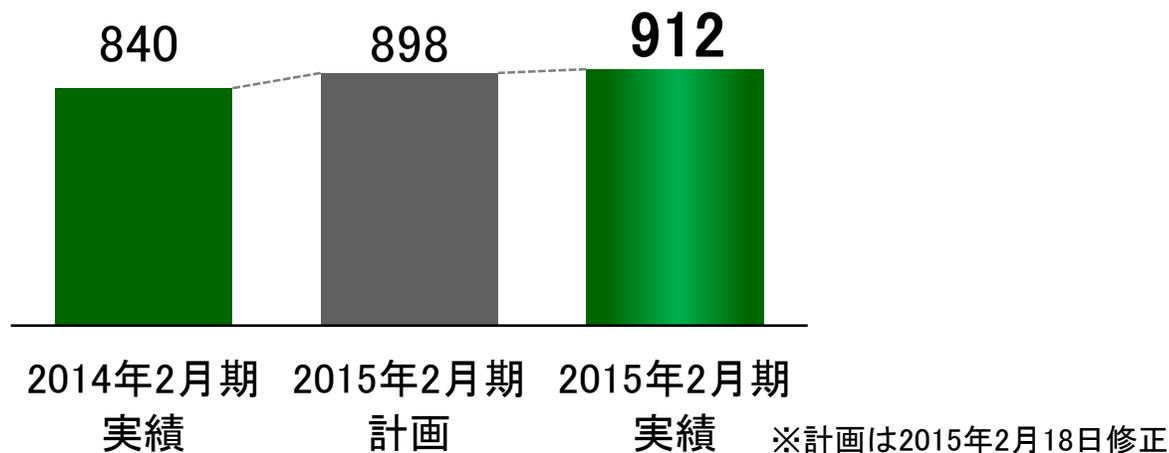
セグメント別詳細：金型

▶ 金型における決算概要

売上高



利益



前期比

売上高：増収

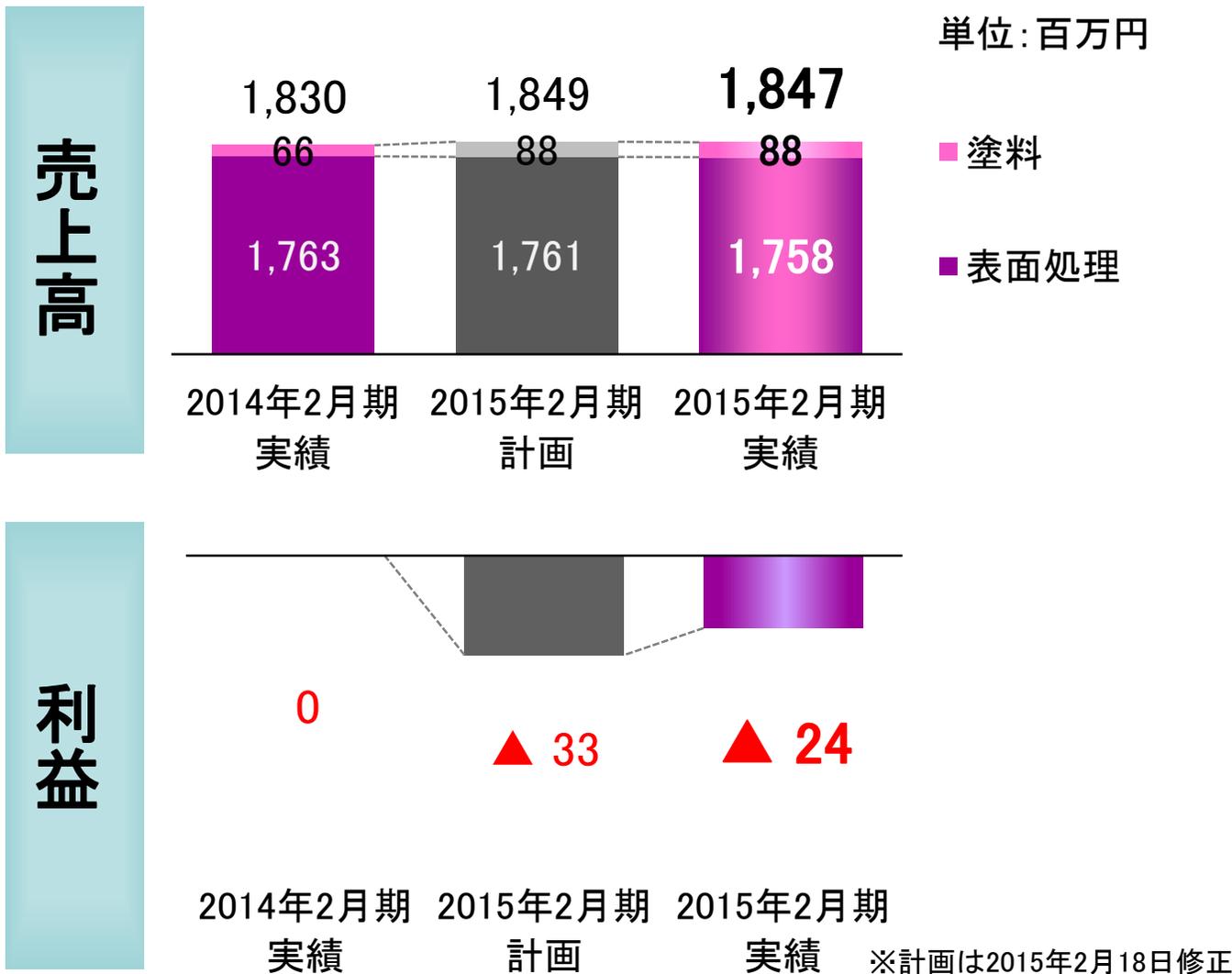
セラミックス押出金型
ディーゼル車用が増加

利益：増益

増収により増益

セグメント別詳細：表面処理

▶ 表面処理における決算概要



前期比

売上高：増収

自動車部品、電力貯蔵用電池部品が堅調に推移。

利益：減益

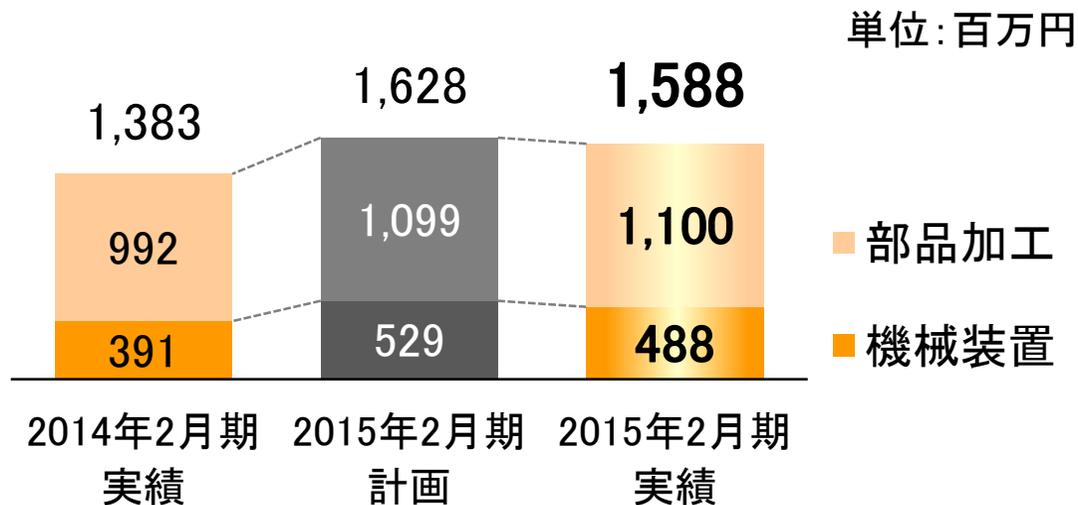
新規アイテム立上に伴い、費用増加により減益。

セグメント別詳細：機械装置等

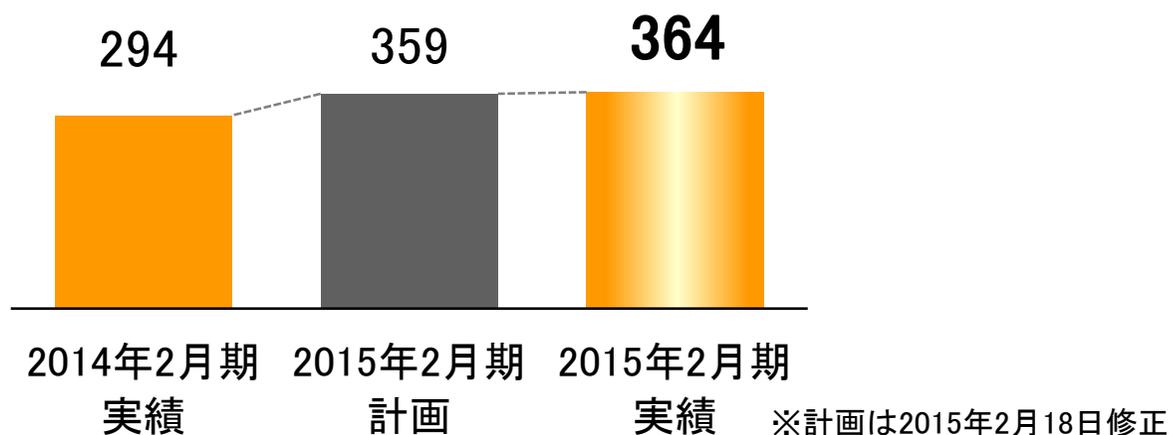


▶ 機械装置等における決算概要

売上高



利益



前期比

売上高：増収

小型サーボプレス機
ZENFormer nanoの販売数
増加及び自動車関連部品
の増収

利益：増益

増収により増益

2016年2月期 業績見通し

セグメント変更

▶ 2016年2月期より現状4セグメント→3セグメントへ変更

旧セグメント

放電加工	
原動機	
その他放電加工	

金型	
アルミ押出用金型	
セラミックスハニカム 押出用金型	
プレス金型	

表面処理	
表面処理	
塗料	

機械装置等	
機械装置	
部品加工	

— 放電加工・表面処理を統合、プレス金型を機械装置等へ —

新セグメント

放電加工・表面処理	
原動機	
その他放電加工	
表面処理	
塗料	

金型	
アルミ押出用金型	
セラミックスハニカム 押出用金型	

機械装置等	
機械装置	
部品加工	
プレス金型	

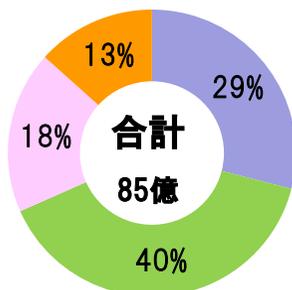
旧セグメントと新セグメント対比

▶ 直近における売上構成比 新旧対比

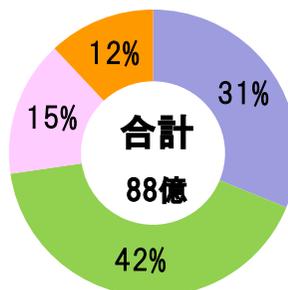
旧セグメント

- 放電加工
- 金型
- 表面処理
- 機械装置等

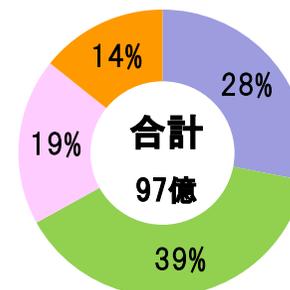
2012/2期
実績



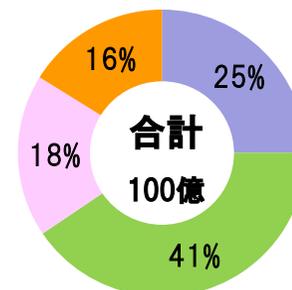
2013/2期
実績



2014/2期
実績

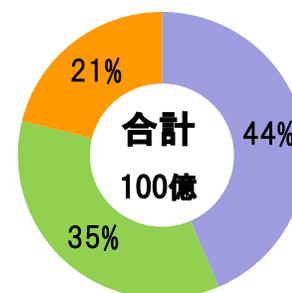
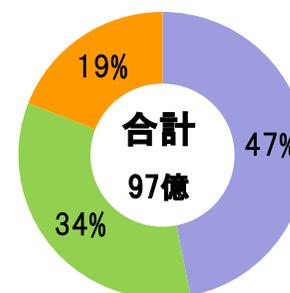
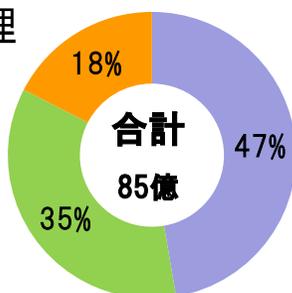


2015/2期
実績



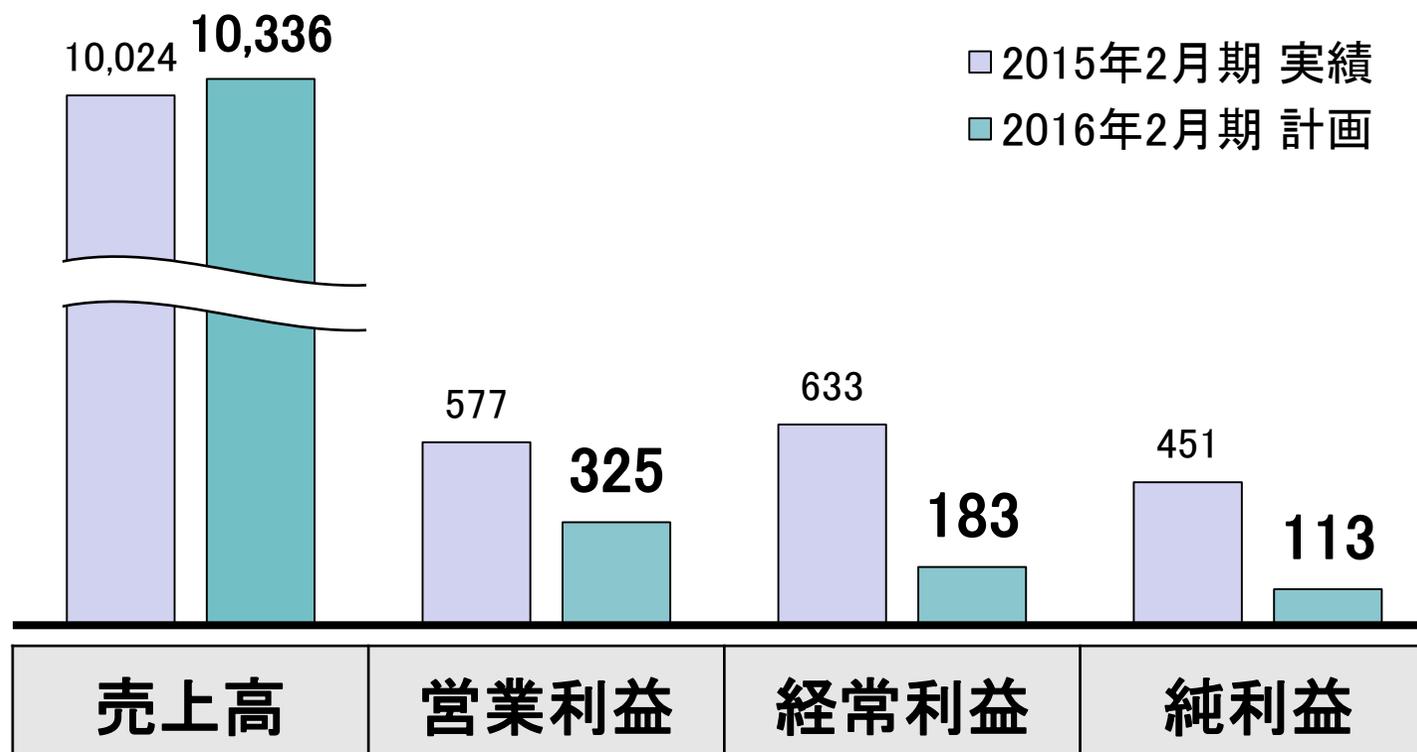
新セグメント

- 放電加工・表面処理
- 金型
- 機械装置等



▶ 2016年2月期は増収も先行費用により、減益

単位：百万円



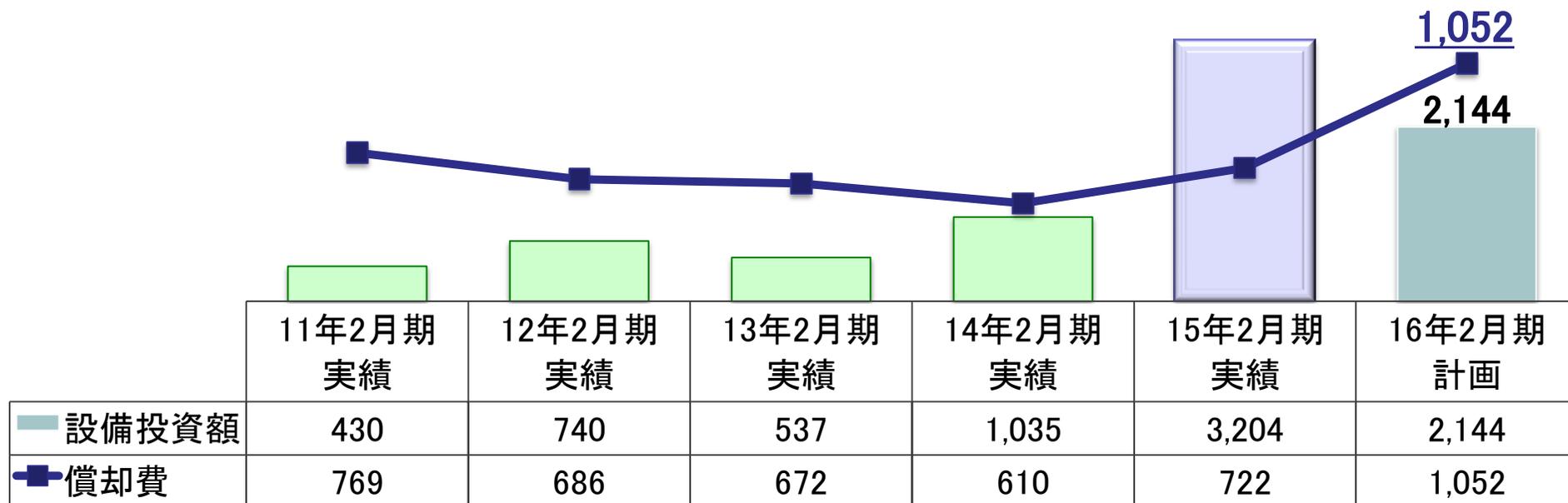
▶ 2016年2月期は償却費負担が増加

2016年2月期 各主要内容

- 設備投資 → 航空エンジン部品生産設備
- 減価償却費 → 新規事業開始による償却増

減価償却費・設備投資の推移

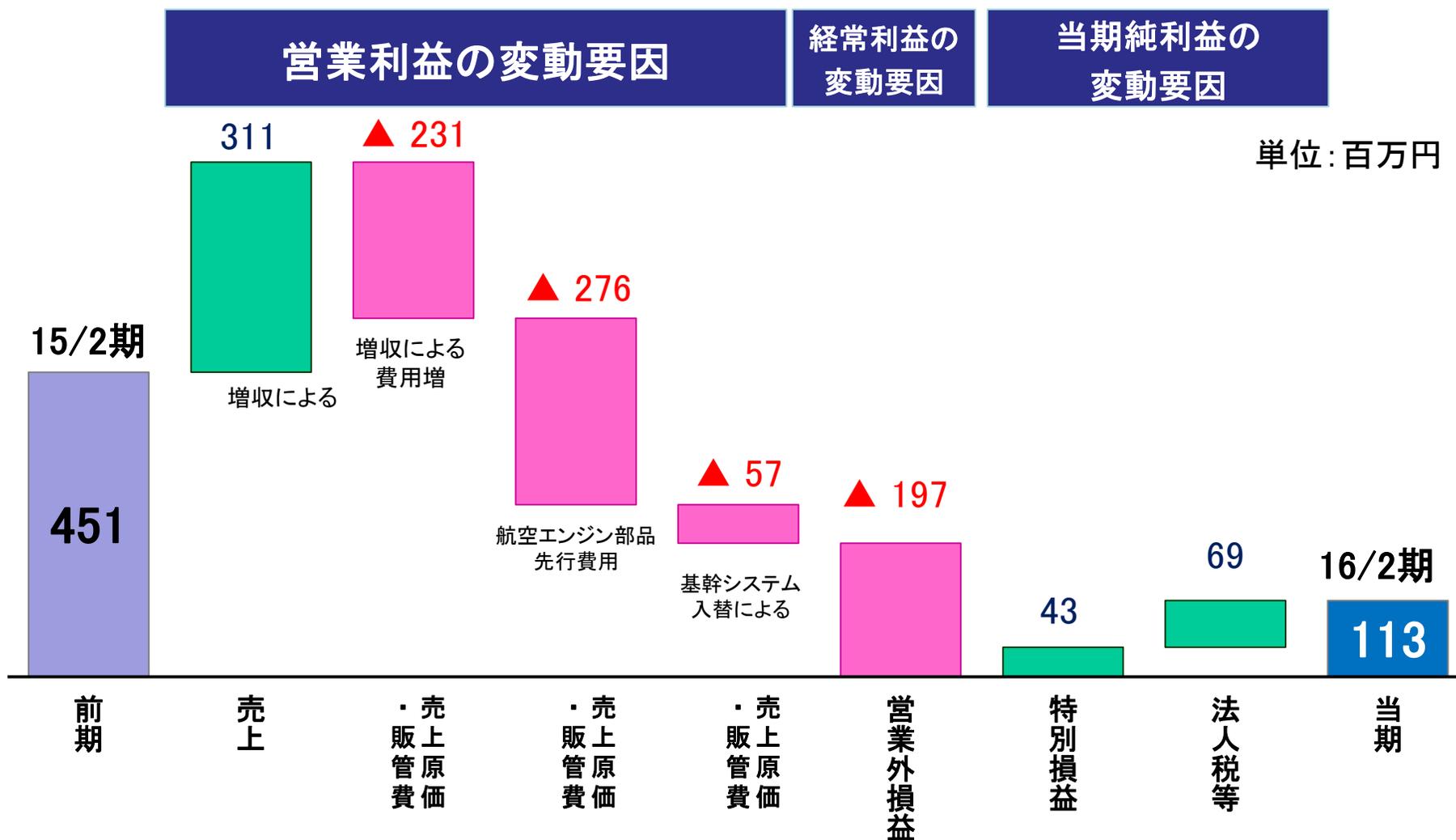
単位：百万円



2016年2月期当期純利益の変動要因



▶ 前期比における純利益の変動要因



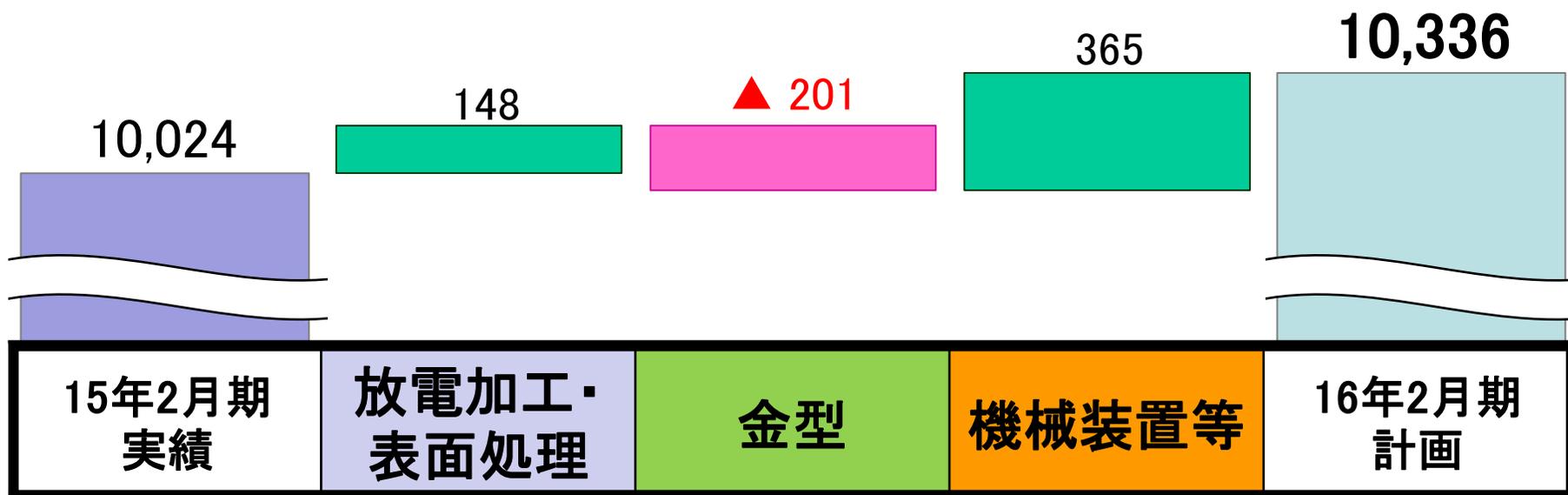
▶ セグメント別売上高見通しにおける前年比較

売上高見通しの前提

- 放電加工・表面処理 → 航空機エンジン部品生産の一部開始
- 金型 → アルミ押出用金型の減収
- 機械装置等 → プレス機械等の増収

売上高見通し増減

単位:百万円



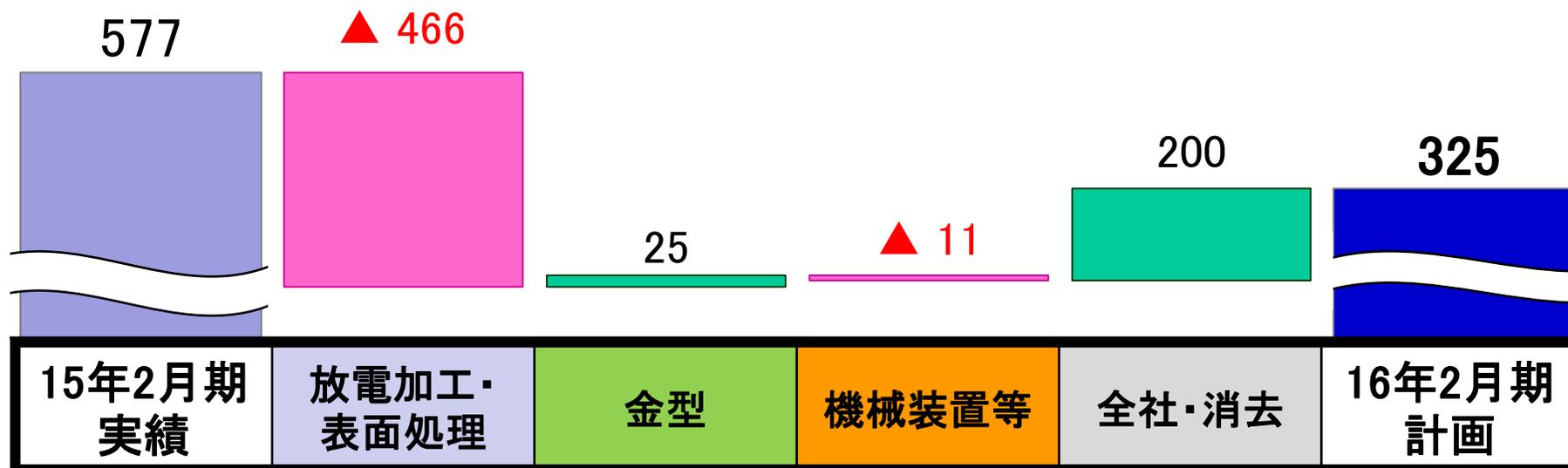
▶ セグメント別利益見通しにおける前年比較

利益見通しの前提

- 放電加工・表面処理 → 航空機エンジン部品生産の先行費用により減益
- 金型 → 生産性向上により増益
- 機械装置等 → 設備投資に伴う減価償却費の増加により減益

利益見通し増減

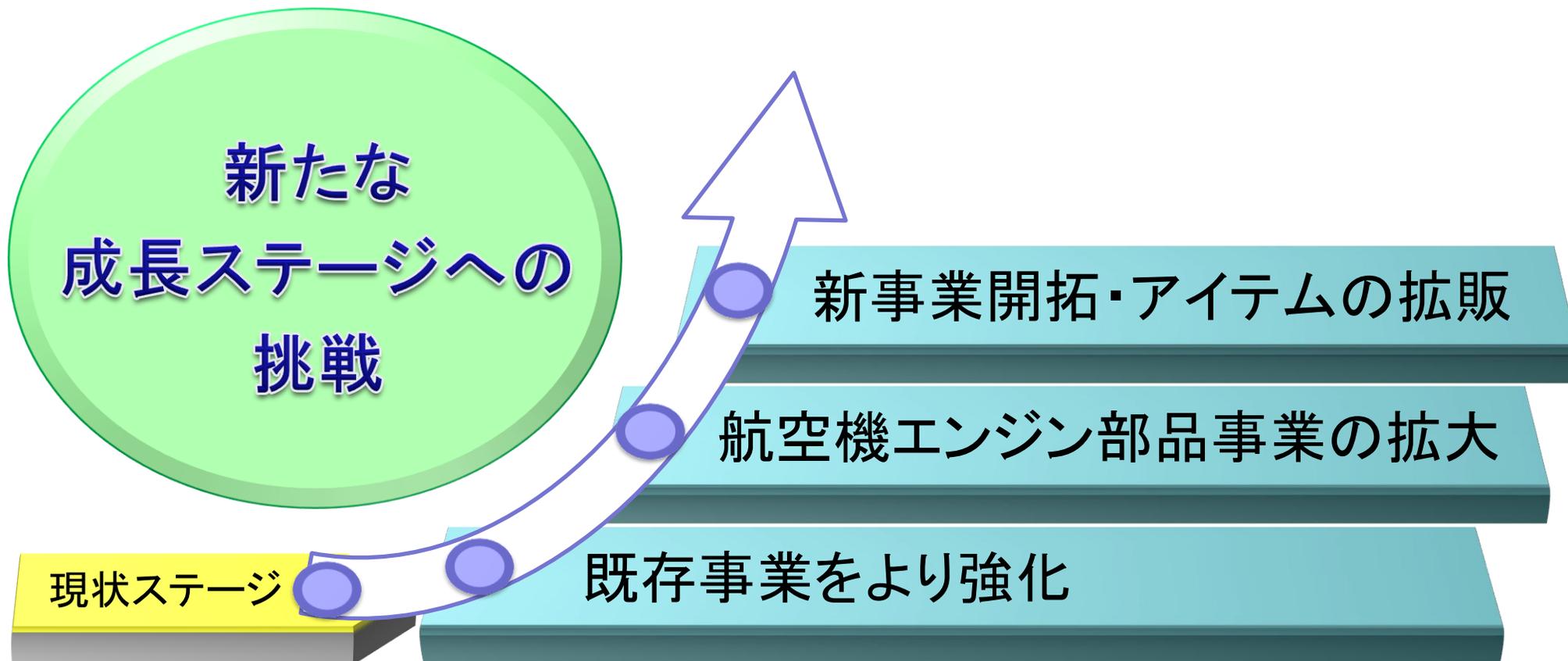
単位: 百万円



中期経営計画

▶ 2018年2月期には営業利益10%を目指す

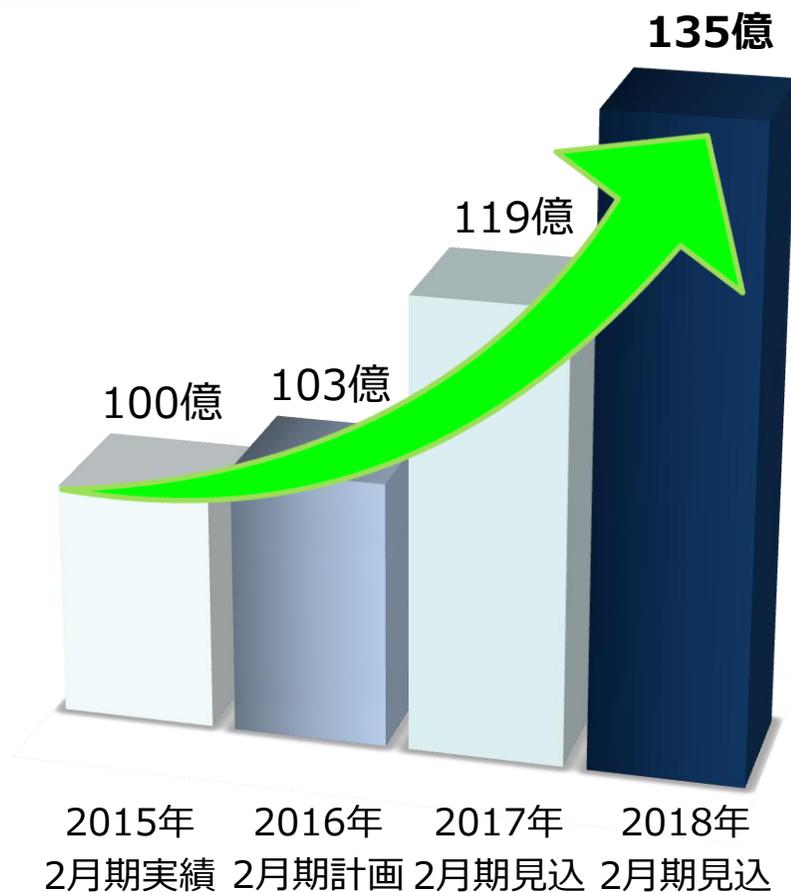
中期経営計画と戦略



中期経営計画(数値目標)

▶ 2016年2月期を底にV字回復を目指す

売上高



営業利益



▶ 原動機関連事業の強化

一貫加工アイテムの
受注強化

当社保有技術

放電加工	機械加工
耐熱耐食コーティング	耐磨耗溶射

原価削減

原価管理の徹底
原価低減活動の強化

特殊工程技術の応用より主要顧客以外への拡販

▶ アルミ押出用金型は対応領域の拡大

当社DMMの特徴

- 
- 三次元 ⇒ 図面指示に忠実な三次元加工
 - 持出量 ⇒ 穴寸精度向上（顧客のコスト削減へ貢献）
 - 高品質 ⇒ 形材面質向上（形材表面粗さUP）
 - 再現性 ⇒ カンと技能を数値化しNC加工
 - 安定性 ⇒ NC制御、バラツキ減少（押出し安定）
 - 長寿命 ⇒ 裏逃げ細部の精度向上（強度UP）
 - 低価格 ⇒ 省技能化と工数低減

対応領域の拡大

既存事業の強化③-1

▶ プレス部品加工の拡大



環境対応車向け部品

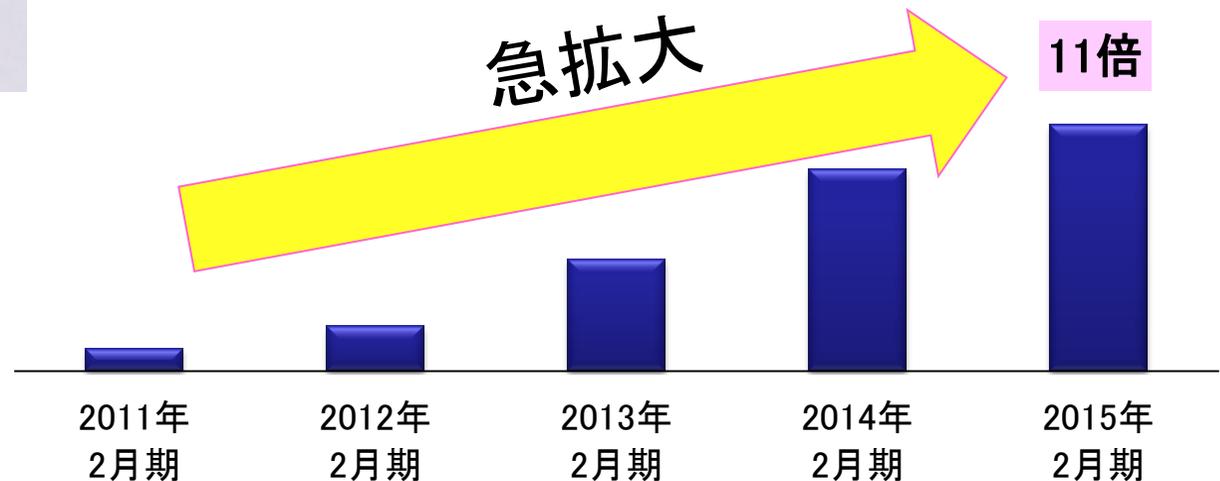


アイドリング
ストップ機構



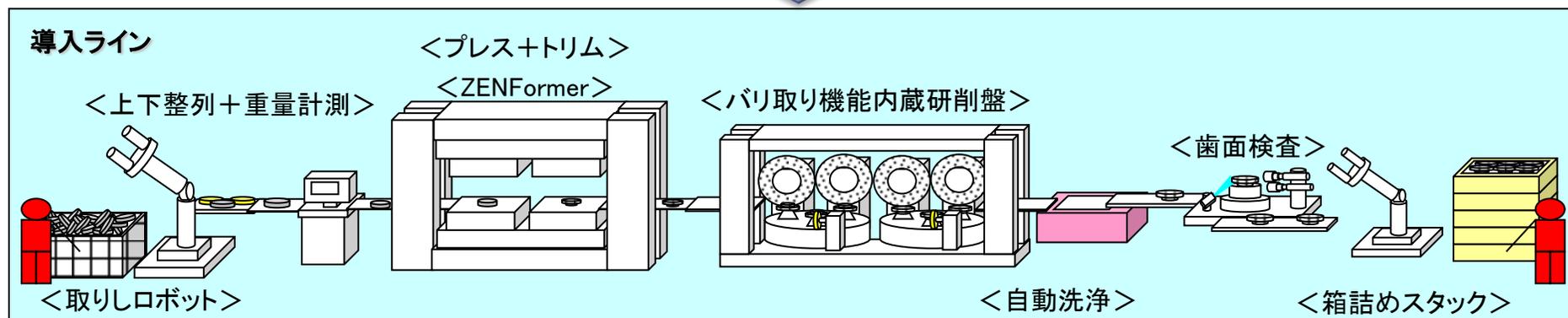
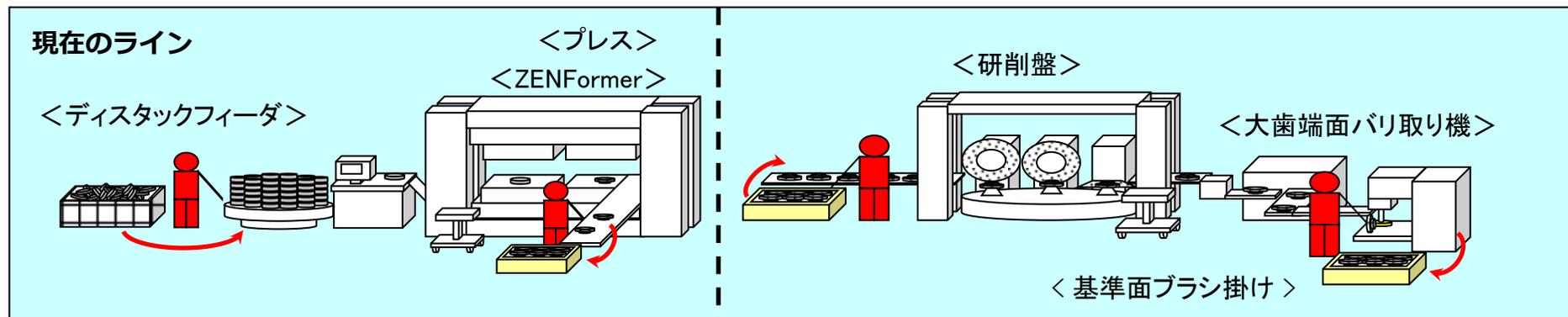
売上高の伸び率 (2011年2月期を基準)

急拡大



既存事業の強化③-2

▶ 環境対応車向け部品の生産自動化による原価低減と生産能力向上



作業人数 2人 ▶ 1人

生産能力 月8万個 ▶ 月16万個

▶ ZENFormer nanoによる更なる領域拡大へ

ZEN
Former



利用方法	顧客製作品内容(一例)			
温間鍛造	マグネシウム			
精密せん断	ギア	シートベルト部品	樹脂部品	
段差加工	エンジン部品	HVモータ部品		
薄板加工・積層加工	燃料電池	自動車部品		
板鍛造	ドア部品	ハードディスク部品	家電部品	変速機部品
冷間鍛造	エアバッグ部品	エンジン部品	シートベルト部品	
素材開発	CFRP	ハイテン		
試作、研究開発 工法開発				

ZEN
Former
nano



利用方法	顧客製作品内容(一例)		
切断	アルミ押出	フィルム	
薄板加工	コネクタ部品	リードフレーム	精密部品
軸物成形	ステアリング部品		
試作、研究開発 工法開発			

ZENFormer nanoによる新たな業界/顧客の発掘

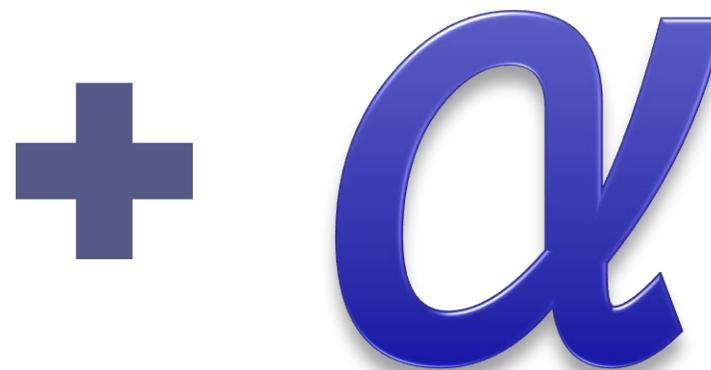
プレス機販売及び顧客にあった工法を共同開発にて拡販

▶ 低圧タービンブレードは順調に進捗中

エアバスA350

Trent-XWB

低圧タービン
ブレード



- 客先認証取得中
- 生産工法の更なる改善検討
- NADCAPの認証
- 安定生産体制の構築

- 昨年より試作・製作ラインの準備
- 現在、客先と最終調整中

▶ 安定かつ継続的な配当が基本方針

基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考えております。現在及び今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、配当性向30%を一つの目安として、継続的かつ安定的な利益還元を実施すること。

■ 配当金

2016年2月期計画	10円
配当性向	63.6%

独創技術でニーズに応える

HJK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記載が記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。